

7 月「日常語から手話表現を考えよう」担当:研究部

学習会プラスのトップバッターということで、とにかく参加者全員が楽しんで学べる内容にしようと考えました。私たちが普段なにげなく使っている言葉の意味を改めて考えて、きこえない・きこえにくい人と共有し、さらにその手話表現を考えてみよう！という企画を行いました。例えば、最近よく目に・耳にするようになった「推し活」や「映（ば）える」、よく使うけれど実体はあいまいな「青春」や「生きがい」。グループに分かれ、話し合いは盛り上がりしました。漢字にとらわれた手話表現を考えがちな私たちに比べ、きこえない・きこえにくい人たちの表す手話の魅力的なこと！日本語や手話の奥深さ、おもしろさを再発見できました。

10 月「祝 手話言語条例」担当:手話言語条例プロジェクトチーム

6 月に成立した「さいたま市手話言語条例」をもっと身近にそして豊かにするために、条例後の未来をみんなで考えました。前半は病院、職場、旅行など 8 つのテーマでグループを分け「こんなふうになるといいね」を話し合い、発表をしました。後半は、「手話言語条例」にちなんだ手話表現の学習を楽しくゲーム感覚で行いました。「手話」は両手、「言語」は片手、「条例」は左右違う動き、の条件で手話表現をグループごとに考え発表し、協会理事が「○・×」の判定をしました。想像を超える数の手話表現がたくさんでました。判定をする理事も笑ったり悩んだり、大いに盛り上がりしました。

11 月「デフリンピック楽しんでますか？」担当:デフリンピック啓発委員

11/18、19、20 はちょうどデフリンピック開催期間中でした。

前半は協会理事にミニ講演をしていただきました。デフリンピックについての知識を深めたり、今までの啓発活動を振り返る内容で、どの会場も皆さん熱心に見ていました。後半はグループに分かれ、デフリンピックに関することを自由に話してもらいました。すでに応援に行ったことや、大会ボランティアのこと、会場入り口の大行列の話などがあり、大いに盛り上がりしました。日本初開催となった東京 2025 デフリンピック。情報保障のあり方や、きこえない人・きこえにくい人とのコミュニケーションについて、皆で考えるよい機会となりました。



2 月「踏み出そう！県の活動へ」担当:埼通研担当、県南連絡委員会担当、地域班連絡会担当

さいたま市の活動と同じように埼玉県活動にも興味を持ってほしいと思い、会員の皆さんと一緒に、クイズに挑戦しながら学ぶ機会をつくりました。少々難しい問題もありましたが、横島（義）理事の解説が目からウロコで、理解がグッと深まったのではないのでしょうか。今回を機に、ぜひ一歩踏み出して、埼聴協や埼通研の行事にも参加してみましよう！



横島(義)理事

